

2015東京シクロクロス



場所 東京お台場

天候 雨

結果 優勝 豊岡英子（パナソニックレディース）34'11

2位 宮内佐希子（チームチェーンリング）+3

3位 坂口聖香（パナソニックレディース）+1'5

今年も、シーズン最後のレース、東京シクロクロスの日がやってきた。

世界選手権の次の週であり、帰国して日も浅く時差ボケとの戦いであるが、世界選手権メンバーとしては無様な走りはできない。

さらに、チャンピオンジャージに初めて袖を通すという事もあり、身体は重く前日は30分しか寝れない中でのレースであった。

世界選手権で痛めた肋骨も気にはなるが、10:30よりストレッチとアップを始める。

コースは、お台場ビーチの砂区間、今年はランが多い。

そして森区間、立体交差からの段差というハードなコースレイアウト。

11:40からの試走開始。

すると2周目から予想通り雨が降ってきた。

タイヤは、CHICANE で試走するが、だんだん森区間が滑り出すのを感じ、急遽GR IFOに変更する。

3周試走し、テントに戻り、ローラーでウォーミングアップ開始。



12:50スタート。

先頭で、砂区間に入りたかったので、スタート前は自分のライン取りのイメージを繰り返し、神経を集中させ1番で砂に入る。

砂を抜け、階段上り、森区間に入る所で滑って転ぶ。

雨のせいで、やはり相当滑る。

落ち着いて、と心の中で唱える。

呼吸が落ち着いていたので、今日はいけると思った。

そのまま1周目は、順調に周回を重ねる。

少し後ろとはタイム差が開いた。

しかし、2周目、森の中、砂区間でも何回も転びだす。

ピットに入り毎周回自転車を交換した。

3周目の森の中では思ったラインに行けずに自転車から降りる場所すらあった。

しかし、ピットで空気圧下げたから大丈夫と声がかかる。



4周めに入ると、後輪がパンクしているのではないかと勘違いする位、空気圧が抜かれていた。

今シーズンは、肘の容体もあり、レース数も減らし、なるべくオフロードには入らずトレーニングしていたため、砂の扱いが上手くいかない。

そして、周回を重ねる度に、左半身の踏ん張りが利かなくなっていき、左コーナーを曲がる時ビクビクしていた。

2位の宮内選手がすぐ後ろまで追いついてきていた。

最終周回に入ると、さらに空気圧が抜かれていた。

レース後に聞くと、**0.95**という驚異の空気圧であった。

オンロードではタイヤがよじれて落車するのではないかと思った。

ケガをせずに、通常通りシーズンを迎えていたら、至って普通に乗りこなせていたであろう。

最終周回の砂区間でピットに入ると、宮内選手はピットに入らず、そのまま通過し、私の前に出た。

砂の折り返しで前にでなければと思い、イン側から一気に攻め込み、宮内選手の前に再び出た。

そして、ここからは私の前は絶対に走らせないと決め、全体力を振り絞った。

その間も、沢山の応援が聞こえてきて、それがパワーとなった。

最後のホームストレートに出たときは、後ろに宮内選手は確認できなかった。

低空気圧でタイヤがよじれそうになりながら1番でゴールラインを通過した。

ゴールした時は立てなかった。

ケガで始まったシーズンではあったが、精神的にも肉体的にも成長できた、そんなシーズンを最高の形で締めくくる事ができた。

応援ありがとうございました。

使用機材

自転車 PANASONIC

ヘルメット KABUTO

ステム DIXNA

フォーク ONEBYESU

ハンドル ONEBYESU

シートポスト ONEBYESU

バーテープ DIXNA

サングラス adidas eye wear

サドル fi' zi:k

シューズ fi' zi:k

タイヤ challenge

サイクルウェア pearl izumi

コンプレッション 2XU

自転車ケミカル **HOLMENKOL**

カイロプラティック 日本カイロプラティックセンター大船

セルフボディケア用品 セルフボディケアジャパン

輸行バック Ostrich

